

〈水運分野〉

Ⅱ－43 西江航道整備（広東）

広東の省の南を珠江と並行して流れる西江は古来より、水上交通上も重要であり、そのいつその整備が強く求められていた。

本工事は1985年2月に着工した三級航道整備である。航道総延長は1,150kmである。

（図はNo. 67参照）

〈道路分野〉

Ⅱ－44 京津塘高速道路（北京～天津～塘沽）（142km）

本工事は北京、天津の両市を貫通し、塘沽新港に至る幹線道路である。全長142km、設計速度は時速120km、道路の閉鎖はテレビ監視にもとづくコントロールによる、同時に自動電話等による総合サービス施設もある。

本工事は国際入札により、また、中国の道路建設史上最初に世銀の施工管理システムを採用し、工事管理技師が工事の監督責任をもった。

工事総投資額は10億元、そのうち、世銀借款は1.5億\$、工事は1987年に起工、予定では1992年に使用に供する。これは京津塘地区の交通条件を改善し、京津塘両都市間の自動車輸送の時間を短縮でき、天津港の貨物の集散を加速し、同時にこの間の鉄道への負担を軽減するなど、いずれも重要な機能を発揮する。

中国では7・五計画中に次の七本の高速道路を建設する計画である。

1. 西臨高速道路（西安～臨潼－陝西省）

（23.8km、路幅15m、片側2車線の4車線道路、速度制限120km、瀝青路面、工期1986年～1989年）

2. 上海－松江（上海市）高速道路

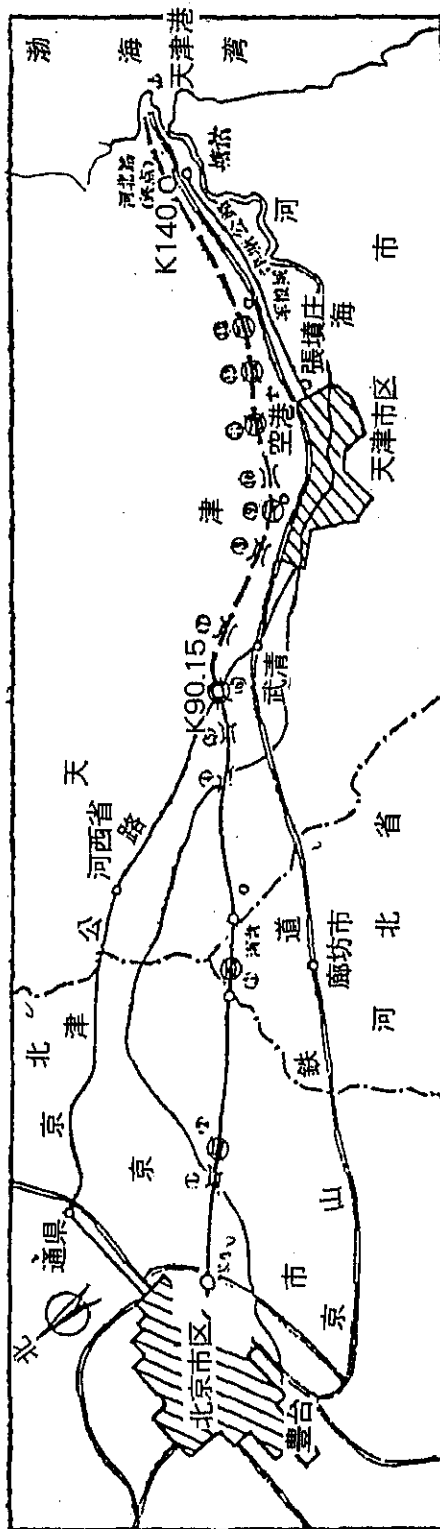
3. 広州－仏山（広東）高速道路

4. 北津塘高速道路

5. 瀋大1級道路（Ⅱ－42 瀋（陽）～大（連）一級道路）

6. 上海－嘉定県高速道路

7. 広州－深圳高速道路



出所：地理知識 1991年3月号

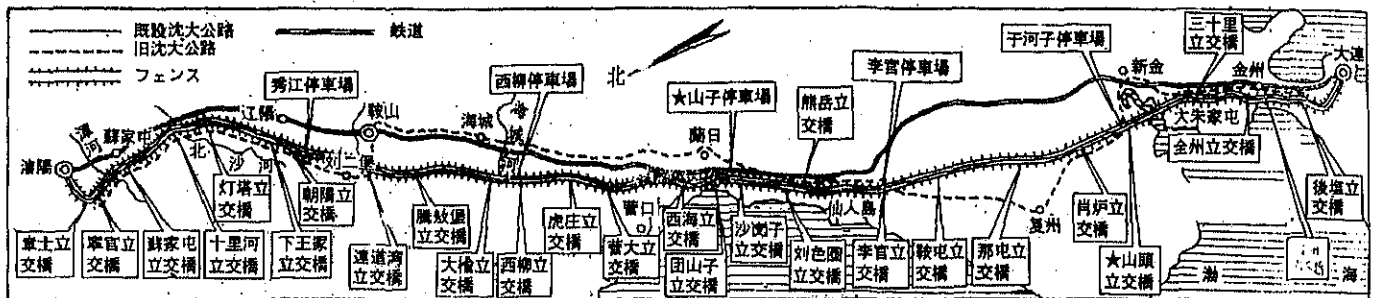
⊖ は橋梁 ⊕ は立体交叉

II-45 瀋（陽）大（連）一級道路（遼寧省）（375km）

全長375km、遼寧省の省都であり、大工業都市である瀋陽と工業、港湾、貿易都市の大連を結びわめて意義の大きい道路である。

1982年に着工、米国がインターチェンジ、日本は東急建設を中心に新潟鉄工、日本道路公団等が協力をした。

片側2車線の4車線で、制限速度は50km～110km、1990年9月に開通式が行われた。この完成により、大連、瀋陽間を4時間で結ぶことになり、今後の東北地方の開発に大きな威力を発揮することが期待される。



出所：地理知識 1991年2月号

〈郵便、電気通信分野〉

II-46 京滬（滬）デジタルマイクロウープ（北京、河北、天津、安徽、山東、江蘇、上海）

本工事は国内長距離電話通信に対する需要に応えるものであって、1,920回線を建設する。

II-47 広州電信キーステーション（広東）

本工事は1988年に着工した。

II-48 寧漢渝光通信ケーブル（寧波、武漢、重慶）（浙江、湖北、四川）

本工事は1986年9月に着工した。光通信ケーブルの総延長は2,400kmである。

II-49 北京フランス借款通信工事

本工事は1988年4月に着工した。デジタル自動交換器の回線数は16.9万回線である。

〈空港分野〉

II-50 咸陽空港（陝西）

本工事は航空機のジェット化および開放体制推の一環として進められている地方空港設備のひとつである。本工事は1987年に着工し、3,200mの滑走路を設計するものである。

（図はNo. 32参照）

II - 51 長沙黄花空港 (湖南)

本工事は1986年6月に着工し、2,600mの滑走路を建設するものである。1989年完工。

(図はNo. 85参照)

II - 52 昆明巫家坝空港 (雲南)

本工事は1988年に着工し、3,400mの滑走路を建設するものである。

(図はNo. 86参照)

〈鉄鋼分野〉

II - 53 唐山鋼鉄公司 (河北)

唐山製鉄所は中国の10大重点製鉄所のひとつであり、採鉱、選鉱、焼結、コークス、対火材料、製鋼、圧延工程等完結型大型製鉄企業である。1988年の生産額は鋼142万トン、従業員は33,000人である。品種も18品種に達した。

本工事は、7・五計画期間に大型近代化高炉システムの建設および高速線材圧延機の導入、そして製鉄規模を150万トン増産するための拡充工事である。本工事は1986年に着工した。

(図はNo. 80参照)

〈非鉄金属分野〉

II - 54 焦作中州アルミニウム工場 (河南)

本工事は1987年11月に着工した。酸化アルミニウム20万トンのプラントを建設する。

(図はNo. 42参照)

II - 55 山西アルミニウム工場 (第二期工事) (No. 119参照)

II - 56 中原精練所 (金) (河南)

本工場は河南省三門峡市における金の精練所の建設工事であり。1987年11月に着工した。完工後は年間7,756kgの金を生産する予定である。

(図はNo. 117参照)

〈化学工業分野〉

II - 57 碧山磷鉱 (河北)

本建設は河北省張家口市涿鹿県において1987年10月に着工した。完工後は磷鉱石を年間、120万トン採掘する。

(図はNo. 80参照)

II - 58 大連化学工業公司 (遼寧)

本建設は1987年6月に着工した。完工後は磷酸アンモニウムを年間、24万トン生産する予定である。これは本工場がアンモニア部門の強化を図ったわけであるが、本件にはさきにJICAが工場診断をした経緯があるが、具体化にはイタリアが協力しつつある。

(図はNo. 47 およびII - 42 参照)

II - 59 南京化学工業公司 (江蘇)

本建設は1987年6月に着工した。1989年完工、完工後は磷安を年間24万トン生産する。大連とならんでもっとも古い化学肥料工場であり、主として磷酸肥料を生産する。

(図はNo. 99 参照)

II - 60 中原天然ガス肥料廠 (河南)

本建設は鄭州の北東、濮陽において1987年に着工した。完工後は合成アンモニアを年間、30万トン生産する。

(図はNo. 141 参照)

II - 61 805 廠 (化学材料) (甘肅)

本建設は蘭州市白銀区において1986年7月に着工した。

(図はNo. 126 参照)

II - 62 貴溪化肥廠 (江西)

本建設は1987年9月に着工した。完工後は年間、磷酸12万トン、磷安24万トン、酸化アルミニウム6,000トンを生産する。(No.124 も参照)

(図はNo. 124 参照)

II - 63 天津化工廠蛋白アンモニウム酸工程

本建設は1989年10月に着工した。完工後は蛋アンモニウム酸、年間1万トン生産する。

(図はNo. 80 参照)

II - 64 816 廠肥料工場 (四川)

本建設は涪陵市において1989年11月に着工した、完工後は年間、合成アンモニア30万トン、尿素52万トンを生産する。

四川省にはそのほか四川化工廠が四川平原の西、成都市にあって、その敷地面積は162haあり、10,000人以上の職員が従事している。その生産商品には合成アンモニア、窒素肥料、硫酸、触媒等がある。

本工場は1957年に建設を開始し、まず、1964当初の計画量の硫酸を生産した。その後、発展と改良を重ね1966年には合成アンモニアは年産12.8万トンに達し、1974年には日本からの導入の化肥装置のための建設も開始された。その後、日本との技術交流も発展し、今回の新工場建設の基礎をきづいた。

(図はNo. 79参照)

〈石油化学工業分野〉

II-65 上海エチレン工場

大慶(黒竜江省)、楊子(南京)、山東とならぶ、年産30万トンのエチレンを生産する。石油化学工場であり、上海としては宝山製鉄所プロジェクトに次ぐ、大規模なプロジェクトである。本工事は1987年5月から開始され、第1期工事は1989年完工予定。

工事は二段階に分け、第1期工事では6セットの大型の近代化した生産装置を据付ける。全体の建設費は50億元を予定し、完成後は毎年、国家に対し、有機化工原料、プラスチック、化繊、合成ゴム等、120万トンおよび税金、10億元を提供することになる。

今回の建設に対し、国は中国人民建設銀行に対し、5億3,600万元の債券を発行することを認めた。1987年国家重点プロジェクトに認定された。

上海石油化工総廠は上海の杭州湾に面した金山衛に第一期工事として、1972年6月から建設され、1979年に完工した。第1期工事では18セットの設備が導入され、主要なものはエチレン、プロピレン、BB留分、ガソリン分解等である。設備のうち、約半数の9セットは日本からの導入である。第2期工事1980年7月から開始され、1984年に完工した。

ここでは主として、水素化分解が導入され、第一期と第二期を合せて、合成繊維28万トンポリエチレンテレフタレートチップ20,000トンとなった。その後、第3期計画に入って、現在の30万トンのエチレン装置を導入することとなった。

この第一期から、第3期の建設を通して、いえることは海外の進んだ技術を導入する中にも、自主的にそれを消化し、不断に技術改善を進め、技術要員の養成に努め、製品の多様化を図って、今に到っていることである。

(図はNo. 182参照)

II-66 広州石化総廠(広東)

本建設は1987年10月に着工した。完工後は年間、常圧減圧蒸留250万トン、分離分100万トン、気体分溜15万トン、ベンゼン化油6万トンを生産する。

広州石化総廠は広州の城外20kmのところ1974年8月に建設を開始した華南最大な近代化した石油化学企業である。1978年に最初の製品である尿素を生産した。その主な設備はフランスから導入した年産30万トンの合成アンモニア装置、52万トンの尿素装置および250万トンの常圧減圧蒸留装置である。

その後、広東を中心とした華南の著しい経済発展に合わせて、その役割も大きくなり、ドイツからポリエチレンの包装材料（BOPP）設備を導入し、拡大と多様化を続けて、今回の設備導入に到った。現在は製油部門で年間400万トンとする計画があるほか、ガスを利用したポリプロピレンやアンモニアプラント等を手掛けている。

（図はNo. 67参照）

〈水利分野〉

II-67 洛寧故県ダム（河南）

黄河は世界の著名な治水の困難な河川である。現在、黄河で進められている黄河下流の防洪工事ではその主要プロジェクトのひとつは洛河（洛陽の側を流れ黄河に注ぐ）に沿った故県（河南省）にダム（11.5億 m^3 ）を建設することである。これにより、大洪水時には花園口（鄭州市の北）におけるピーク時の黄河の流量を5,500 m^3 /秒減少させうる。総投資額6億元、計画では1992年完工予定である。他のひとつは黄河下流の大堤防を高くし、強化する工事である。黄河下流の防洪工事完工後は下流の安全を保証するものである。

（図はNo. 141参照）

〈建材分野〉

II-68 魯南セメント工場（山東）

本建設は勝県において1987年4月に着工した。完工後は年間、130万トンのセメントを生産する。

（図はNo. 15参照）

II-69 雲浮セメント工場（広東）

本工場は広東省雲浮県に建設されており、傍に有名な雲浮硫鉄鉱山がある。1987年12月に着工した。完工後は年間68万トンのセメント生産する。

（図はNo. 134参照）

II-70 耀県セメント工場（陝西）

本工場はトキの生息地と有名な陝西省耀県に建設されている。完工後は年間、70万トンのセメントを生産する。

（図はNo. 32参照）

II-71 新疆セメント工場

本工場はウルムチ市において1989年11月に着工した。完工後は年間70万トンのセメントを生産する。

（図は54Pの図-2を参照）

〈機械工業分野〉

II-72 ハルビン発電所設備工場

ハルビンの東南には「発電機」「蒸気タービン」「ボイラー」等の動力設備を製造する近代化した大企業がある。これらを総称して人々は「動力の村」と呼ぶ。ハルビン電機廠はそのひとつである。ハルビン電機廠は中国の発電設備製造工業の基幹企業である。1983年現在で同工場の生産した発電設備は1,962万kwで、そのうち、水力発電機は230基、782万kwであり、それは全国の水力発電機の1/4を占る。また、タービン発電機は181台で、1,180万kwであり、それは全国のタービン発電機の25%を占る。それは全国にまたがるが、最近は米国、カナダ、パキスタンへも輸出している。

ハルビン電機廠の前進は東北電工第4廠が瀋陽から建国間もない1950年に移転してきたところから始まる。その当時は広涼とした広野の中で建設が開始された。1952年中国初の800kw水力発電機が旧工場から生れた。これは歴史的意味を持った。1953年には3,000kwの発電機を製作し、国家重点研究項目のひとつに入った。次いで新工場から、10,000kwの水力発電機が北京の官庁ダム水力発電所に供給された。工場の第2期工事は1・五計画の156重点項目に組み入れられた。1957年水力発電機およびタービン発電機用の大型工場が完成し、ソ連の専門家の援助のもとに72,500kwの水力発電機を製作した。同時に自力設計の25,000kwの蒸気タービン発電機を製作した。1960年ソ連が中朝共建の雲峰発電所の10万kwの設備の供給を中止したのを受けて、あとの3基を製作した(1964年)。その後、同様なものを7基製作し、次第に当時の大型発電機製造技術で、世界レベルへ近づいた。

1975年には武漢製鉄所の1,700mm圧延機用15,000kwの大型交流同調電動機や5,000kwの大型直流電動機を生産するに到って、その分野の技術水準は国際的レベルとなった。そして、60万kwの交直流発電機の生産能力を獲得するに到って、これを冶金、鉱山、化学工業分野へ供給できるようになった。

その後は劉家峡水力発電所ための4基の22.5万kw、1基の30万kwの発電機をはじめ、葛洲壩水力発電所ための5基の12.5万kwの水力発電機を製作した。その他、1983年には白山水力発電所ための30万kw、陡河、荊門、錦州、富拉尔基等の発電所のための20万kwの発電機を製作した。また、日本の日立製作所と共同でカナダのダニボン水力発電所用の水力発電機を製作して、完全に国際水準に到った。

7・五計画における本拡張工事は1986年1月に着工した。完工後は年間300万kwの設備生産能力を持つことになる。

(図はNo. 89参照)

II-73 無錫マイクロ電子連合公司(江蘇)

本企業は1987年12月に着工した。完工後は年間、100万個の大規模集積回路を生産する。

(図はNo. 105参照)

II-74 陝西カラーブラウン管工場

本工場の第一期工事は6・五計画の国家重点プロジェクトとなり、ひきつづいて、第二期工事が7・五計画の国家重点プロジェクトとなったのである。

本工場の拡張工事（二期工事）は1987年12月に着工した。完工後は年間160万本のブラウン管を生産する。

本工場は咸陽の西郊、涇水のほとりの広大な秦川平原に在る。これは部品の生産から、セットまで、完全な近代化した大型の連合企業である。さして本工場は中国における最初のカラーブラウン管を生産する総合的近代化された大型企業でもある。

1973年秋中国の指導部はカラーブラウン管生産設備の導入に同意し、1977年春に国務院はこれを正式に認可し、「咸陽カラーブラウン管工事」として全国重点導入項目として位置づけた。同年6月に専門家団を組織し、日本の東芝、松下、日立等の都企業とRCA等の米国企業と技術交流を始めた。1978年6月、7月の間に組立工場は日立、ガラス、ベール、蛍光粉をそれぞれ、旭ガラス、大日本網板、日本塗料から導入した。工程設計は電子工業部第十設計院が総責任を負った。この工事は日本側に元請企業がなく、各部分の工程をばらばらに導入したことからくる調整の問題があったこと、次が精密機械の生産であるため生産設備の環境条件がきびしいことおよび自動化度が高いことなどが問題であった。1981年10月に最初の製品が生産された。1982年7月から、12月にかけて、検査をおこない1983年に正式に大量生産に入った。第一期工事では年産カラーブラウン管95万本、それ相当のカラーブラウン管平板カバー、カラー蛍光粉等を生産するに到った。生産量は中国各地のテレビ生産工場に100万個を供給した。その後、国際市場にも出荷した。

1985年の技術改造を経て、47cmのカラーブラウン管の新製品を加えた。

本工場は延建築面積が40万㎡、敷地面積120ha、年間14～21インチのカラーブラウン管を96万本、その他47cmのカラーブラウン管相当数、ガラスカバー120万本、平板ベール157万本、蛍光粉60トン等を生産している。カラーブラウン管は「彩虹」ブランド名で市場に出荷している。もちろん本ブラウン管はX線除去等身体に対する影響等は十分にチェックされている。1989年にはカラーブラウン管の年産額を128万6,000本に増加させた。第二期工事は1988年に着工、1990年10月に完工。完工後は従来の34cm、47cm、56cmのカラーブラウン管の他に47cmの細管および54cmの平面直角管の二種類の新製品を出したほか、生産額も280万本に増加した。本工場の製品は品質もよく、また、新型の電子銃および37cm高分解率顕示管等の新技術を開発する等、生産、研究開発、人材養成および技術輸出を一体化した理想的工場といわれる。

（図はNo. 32参照）

II-75 安陽カラーブラウン管用ガラス工場（河南）

本工場は1987年7月に着工した。完工後は年間460万セットのカラーブラウン管用ガラスカバーを生産する。

（図はNo. 141参照）

〈自動車工業分野〉

II-76 南京自動車工場

本拡張工事は1986年1月に着工した。完工後は年間6万台の自動車を生産する。

(図はNo. 99参照)

II-77 重型自動車スダルプロジェクト (山東)

長い間にわたり、中国の重型自動車工業はずっと低い水準での生産に止まり、国民経済とくに石炭、電力等の工業の発展に対する需要を満足させるものでなく、国家はその輸入のため、多大な外貨の消費を強いられてきた。このため、国は'80年代初期の世界の先進水準をもつオーストリアのスダル91系列の重型自動車製造技術を済南市に導入することを決定した。総投資額は7億元、1986年に起工した。1991年完工、稼働の予定である。年産1万台の重型自動車を生産し、1万5千台のエンジンを生産する能力をもつ。

本工場の建設を通じ、元来比較的分散した重型自動車企業をまとめ、ひとつの全国的な経済実体すなわち中国重型自動車工業企業連合公司を成立させた。

これは中国の重型自動車工業の落後し、品種の単一性を終らせ、分割され、「小さく、完結した」生産体系を打破し、中国の重自動車の不足状態を変えるであろう。

(図はNo. 78を参照)

〈軽工業分野〉

II-78 上海アルミニウム材第1工場

本工場は1986年12月に着工した。完工後は年間6,000トンを生産する。

II-79 汕頭感光材料工場 (広東)

本拡張工事は1986年11月に着工した。完工後は年間カラ写真用紙2,242㎡、カラーフィルム320㎡を生産する。

本工場は汕頭市の北郊、韓江に沿って、南北に向って、展回している。しかしその前身は1948年林希之が故郷汕頭で小さな実験室から始め、その後、'50年代に有名となった公元射影化学廠である。さらにこの頃政府は汕頭市の北郊外に30万㎡のソフトフィルムを生産するワークショップを建設した。現在この工場は中国でも比較的規模が大きく、産量が多く、品種が多いことで有名な感光材料の生産と輸出基地となるまでに発展した。

本工場の敷地は19万㎡であって、46種の「公元」ブランドの感光材料、主として写真用紙、フィルム、X線フィルム、新聞ファクシミリ用紙、気象衛星雲図写真用紙、電子顕微鏡用紙等を生産している。それらは国内のみでなく、国外にも出荷している。工場の生産は毎年18%~25%成長しており、1983年には写真用紙で全中国の45%、フィルムは20%、印紙製版フィルムは90%以上を占めるに到った。

(図はNo. 93参照)

II - 80 撫順洗剤化学廠（遼寧）

'80年代以降、人民の生活水準の向上に伴い合成洗剤に対する需要は益々増大した。中国の合成洗剤総生産量は1979年の39万トンが1989年の140万へ増大した。また、品種も2~3種類から、数10種に達した。しかし、合成洗剤中、最重要な成分の表面活性剤は長期わたり輸入してきた。とくに脂肪酸アルコール系表面活性剤の生産は中国においてはやはり、空白な部分であり、全部を輸入しなくてはならなかった。毎年そのために1億\$以上の外貨を消費していた。新たに建設した撫順洗剤化学工場は総投資額10億元、建設規模は年産合成脂肪酸アルコール5万トン、直鎖ベンゼン7.2万トンである。本プロジェクトは1989年11月に正式に起工し、1992年末全体が完工の予定である。その時になって、撫順は中国最大の合成洗剤の原料生産基地となろう。毎年100万トンの合成洗剤原料を生産することになり、これにより、中国の洗剤輸入局面を変えよう。

（図はNo. 8参照）

〈紡績工業分野〉

II - 81 済南テトロン工場（山東）

本工場は1988年6月に着工した。完工後は年間1.5万トンの短繊維、1万トンのテトロン13.8万トンのチップを生産する。

（図はNo. 78参照）

〈文化分野〉

II - 82 陝西歴史博物館

本建設は1986年11月に着工した。完工後は建設面積5.08万㎡となる。

（図はNo. 32参照）

〈教育分野〉

II - 83 中国科技大学（安徽）

本大学はもとは北京にあったが、その後、安徽省省都合肥市に移った。本学は中国でも有数な理科系大学である。この拡張工事は1985年6月に着工した。完工後は16.7万㎡の建築面積をもつ。

（図はNo. 133参照）

〈衛生分野〉

II - 84 協和病院（北京）

この拡張工事によって、同病院は1,200床を擁し、外来、1日当り4,000人~4,500人の現代の大病院となる。

協和病院の拡張総面積は106,500㎡従来の面積の2倍となる。建築形式は民族的特色を活かしたものであり、主棟は10階建、その他は7階建前後である。当面、900床であってそのうち、救急

病床30、重病患者特殊病床25、呼吸、胃腸用監視病床25である。手術室は23台である。

病院内の供熱、送風、空調、電活、エレベーター、自動消火、酸素供給、吸引、コンピュータ端末、吸出システム、対話装置、病院内TV等の設備が全て揃っている。

全体が完工した後は病床は1,200床まで増加可能である。年間治療患者は20,000人となろう、1987年から、本格的工事に入る。

本建設は7・五計画の国家重点プロジェクトとなった。

II-85 牡丹江製薬廠（黒竜江）

本工場は1985年に生産を開始し、主としてアンプル内服液を生産する。とくにロイヤルゼリー、人參剤を入れた滋養剤を中心に生産している。1987年にイタリアから技術導入した。

本工場はこうした中で1987年5月に着工した。1988年にこれが稼動に入った。完成後は年間4.29トンの化学薬品および原料薬を生産する。

（図はNo. 89参照）

〈放送分野〉

II-86 中央テレビ発射塔（北京）

本建設は1987年1月に着工した。

〈その他の分野〉

II-87 保定造紙工場（河北）

本工場の拡張工事は紙幣用紙を生産するもので、1985年3月着工した。完工後は年間5,500トンの用紙を生産する。

（図はNo. 51参照）

II-88 上海浦東ガス工場（第二期工事）

本工事は1988年1月着工した。完工後は日量100万 m^3 のガスを増産する。

（図はNo. 182参照、その他No. 183も参照）

△ 李家峽水力発電所（青海）

本発電所は竜羊峽水力発電所建設開始後にくる次の黄河上流域における大型水力発電所である。それは青海省の尖扎県及び化隆回族自治県の境界で、省都西寧から、116kmのところの位置する。この辺りは峽谷が狭く、水流が急である。

計画によればこの発電所には1基40kwの発電機を5基を設置、総発電機容量を200万kwとする。完工後の発電量は年間59億kwhとなる。これにより、青海省を中心とした西北部のみに電力を供給するのみでなく、華北地区へも供給することになる。

本件について、1986年に専門家集団による設計報告書に対する評価がおこなわれ、それによれば

建設条件がよいとされた。すなわち、工事量が少く、水没面積が少く、投資も節減できるので経済効率がよいとされ、直ちに着工すべきとの答申がなされた。

(図は No. 33 参照)

△ 雅砻江二灘水力発電所 (四川)

本発電所は四川省渡口市米易、塩辺県内を流れる雅砻江下流域に建設される。この工事は発電が主であるが、河川の水利総合利用計画でもある。

ダムは総容量は58億 m^3 、総発電機容量は300万kwで、現在の中国における最大な発電機容量が予定されている長江の葛洲壩水力発電所より20万kw多い規模である。その完成時の発電量は年間160億kwh以上となろう。

本件については成都測量設計院が初步計画したものに対し、中国国際工事咨询公司が専門家団を組織し、全面的に評価をおこなった。全体の配置、水工模型試験、設計機関等からの聴取、設計図、資料の精査し、現地調査をした結果、良好であったので、政府に対し、近い将来、大型水力発電所を建設すべきことを提言した。

(図は No. 27 参照)

△ 瑪納斯火力発電所 (新疆)

本発電所は新疆ウイグル自治区瑪納斯県において、1986年5月1日に着工した。

7・五計画期間における新疆重点プロジェクトと認定された。

工事は二期に分けて施行し、第一期工事では発電機容量は40万kwであるが、一期、二期両工事の完工後の発電機容量は80万kwとなり、新疆における最大な火力発電所となる予定である。

なお、瑪納斯県は省都ウルムチから、西へ150kmのところであって、石河子のひとつ手前である。

(図は 54P の図-2 参照)

V. 地方（省、市、県）レベルの重点プロジェクトの一例。

(表8)

分野	プロジェクト名	所属
<p>山東省 (7・五計画期間中の大中プロジェクトは66項目、この数は全国の各省、市、自治区等を通じ、最大である。このうち国と共通しかつ、地方が資金負担するものが32項目、また、1986年に起工したものが46項目、必要資金は3億元(当時)である。また、国内の関連企業と協力して進める予定のものは右の9項目である。)</p>	<p>1. 日照ガラス工廠 (年産250万標準箱、1989年完工予定。)</p>	
	<p>2. 平邑石膏鉦 (年産50万トン予定。1988年完工予定。資金総需要6千万元。)</p>	(補償貿易)
	<p>3. 平邑セメント廠 (年産120万トン予定。1989年完工予定。)</p>	(生産品分子)
	<p>4. 魚台炭鉦 (年産150万トン、総投資予定は2億5千万元 1990年完工予定。この炭鉦は京杭運河沿線で交通は便利。)</p>	(補償貿易)
	<p>5. 辛集炭鉦 (年産60万トン、総投資額6千8百元、1988年完工予定。ここは交通は津浦線と兗石線の交点という地理的位置がよい。)</p>	(補償貿易)
	<p>6. 山東寿光純可生ソーダー工場 (年産60万トン、総投資額5億7千万元、1988年完工予定。)</p>	(国家重点)
	<p>7. 山東ビニロン工場 (国家重点プロジェクトである齊魯石化会社の30万トン、エチレン工場の附属施設、ポリエステル年産6万6千トン、1989年に稼動した。)</p>	
	<p>8. 溜博合成繊維工場 拡張工事で年産4万5千トンの腈綸生産をするもの。1988年に稼動した。</p>	
	<p>9. 濰坊化織工場 棉の短織資源を利用してビスコースレーヨンを生産するものであり、年産規模は8,000トンを予定、第1期工事4,000トン、第2期工事は1987年上半期に完工した。</p>	

分野	プロジェクト名	所属
北京市	7・五計画中第1年度の北京市のGNPは前年より6.9% up、国民所得は7.9% up	
山西省 14項目	重点プロジェクト14項目、石炭、電力、交通が主力。1986年中に12プロジェクトが完工し稼動。重点プロジェクトの必要物資（鋼材、セメント、材木）等の調達のため「山西省基建物資供給（配奪）請負連合公司」を設立し、国家重点プロジェクトのスームの完工を保証した。	
広西省 11項目	<ul style="list-style-type: none"> ・北海中型飛行場 ・北海新港万吨級バースの建設等、1986年中に全て完工した。 	
青海省 14項目（右の三項目で72%）	<ul style="list-style-type: none"> ・青海カリ肥料廠 ・青海アルミ廠 ・龍羊峽水力発電所 <p>以上のほか11項目は地方重点項目である。</p>	<p>（国家重点）</p> <p>（国家重点）</p> <p>（国家重点）</p>
海南省 鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ・嶺頭～八所 <p>1986年9月29日全線開通</p> <p>東は八所に始まり、南は樂東嶺東に至る。全長50km</p> <p>これに黄流から嶺東までの旧線の修復がある。両方会せて69.2km、その他の附属施設の工事も含めて10月下旬には全線開通となる予定。これにより三亜から黄流、石碌から八所の従来の二本の鉄道が一本となる。そして海南島西側の環島鉄道の基礎が出来上がる。</p>	
道路橋	<p>又河大橋</p> <p>海南島最大な道路橋</p> <p>全長515.7m、高さ22m、橋面幅員9m、両側に1.5mの人道これにより、海南島西側の道路の輸送力が強化される。</p>	
観光	三亜牙籠湾の観光開発	

分野	プロジェクト名	所 属
チベット (国の支援あるプロジェクトは43項目、このうち3項目は建設中止)	エネルギー、交通 10項目 観光 8項目 文教、体育 衛生(ラサ市の上下水道設備) 建材、商業、都市建設 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 10px;"> } 15項目 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 5px;"> 主要なものは 地熱発電、 羅布薩路鉄鉞、 中央道路、 黒昌道路、 貢成飛行場 </div> </div>	
上海市 (7・五計画)	1. 黄浦江大橋 2. 地下鉄 3. デジタル交換電話施設 4. 飛行場 5. 汚水処理	
(6・五計画)	1. 500万m ² の住宅及び関連施設 2. 2基の車輛用立体交叉橋及び7基の歩道橋 3. 国際コンテナ埠頭 4. 32,000回線の市内電話及び400回線の国際電話回線の開設 5. 映画館 1 6. 文化館 1 7. 汚水処理施設の拡張工事 8. 観光ホテル 9. 公寓及び外国人用事務所ビル8棟	
河北省深沢県 (省都石家庄市から東へ65Kmに位置する。 7・五計画期間の重点項目は次のとおりである。) (図はNo. 51参照)	1. バイオテクノロジーの応用 濾沱河の治水及び開発 2. 棉花資源の利用 綿織物工場の拡充と新製品の開発(新生産ラインの導入) 3. 豚毛、馬毛、羊毛加工品の発展とそれらの輸出振興 4. 製皮靴工場の拡張と製品の輸出振興 5. 製服工場の拡充 6. 県練瓦工場地を利用して、果樹の栽培と果実の加工及び防洪地等空地を利用して淡水養殖開発 7. 農作物の茎から、棉の短繊維等を利用しての年産1万トン級の製紙工場の建設及び高級紙の製造 8. 優良小麦の品種改良 9. 建築業の発展	

附-I

6・五計画における国家重点プロジェクトについて

1. 第6次五ヶ年計画中の重要プロジェクトの進捗結果

6・五計画期間中の重点プロジェクトはすでに述べたとおり、173項目であり、さらにそれらは890項目（実際は1071項目）から選ばれたものである（10Pを参照）。これら、173項目は6・五計画における基本建設計画中の主要工事であり、これらの1件当たり平均投資額は7億元以上で、その総投資額は1,339億元となり、890項目中の総費用の60%前後を占める、これらの建設の完成によって、得られる成果は表のとおりである。

1985年末までではこれら項目の総投資額は866億元で計画総投資額の65%を占め、継続して、生産能力を新に増加させており、その結果、表のとおりである。

また、173項目中、完成したのが26プロジェクト、他は7・五計画期にずれ込んだ。

173項目中、エネルギーは61項目、全体の35%を占める。その中で、石炭15項目、石油6項目、電力40項目（水力発電11、火力発電23、原子力発電1、50万Vの高圧送電5）ここでとくに目立つものは湖北省宜昌の葛洲壩水力発電所、完成時の総発電機容量271.5万kw、6・五計画では7台の発電機（容量合計96.5万kw）を設置した。これにより、中南地区の電力問題とりわけ武漢製鉄所の給電問題解決に大きな役割を果たした。さらに、葛洲壩から、華東電力網とくに上海への超高压送電により、上海に送電し、華東地区の問題解決に寄与している。

その他、6・五期間中に完工したものは台州火力発電所第一期工事（浙江省）、元宝山火力発電所工事（内モンゴ）、通遼火力発電所第一期工事（内モンゴ）がある。

交通運輸、通信部門は40項目、全体の23%を占める。その中で鉄道が19項目、とくに重点が置かれたのは山西省から、石炭を沿海に輸送する大秦線（大同～秦皇島）、京秦線の複線化及び電化、京包線（北京～包頭）複線化及び電化、兗石線（兗州～石臼所港）、新荷線（新郷～荷沢）、南同線（修文～候馬）等の複線化及び電化、鉄道主要幹線である隋海線（宝鶏～蘭州間）（鄭州～宝鶏間）、京広線（広州～衡陽間）の電化工事等である。これらのうち、6・五計画期間では京秦線複線化および兗石線の線路敷設が完了した。皖贛鉄道（蕪湖～貴溪間）は完工し、開通した。これにより、華東地区の交通の緊張が緩和されよう。

港湾は12項目、その他、道路1項目、内水運1項目がある。

「北の石炭を南へ運ぶ」こと、および石炭輸出のための石臼所港（山東）はすでに完工し、使用に供している。チベットの経済発展に大いなる貢献をするはずの青蔵道路（青海～チベット）もすでに竣工し、開通している。

郵便、通信分野は7項目、その中には全長3,026kmの北京-武漢-広州間の同軸ケーブルは1985年に完成し、使用に供した。これは2本目の同軸ケーブルで、1本目は北京-天津-合肥-南京-上海-（杭州）である。

1万回線の電子自動制御交換器をもつ北京東単電話局は1985年に完工、営業に入っている。

173 国家重点プロジェクト完成時および1985年時点の増産量

(表9)

項 目	173 国家重点プロジェクト完成時の増産量	173 国家重点プロジェクト、1985年末時点の増産量				
石 炭	8,580万トン	2,815万トン				
原 油	3,133万トン	4,051万トン				
発電機装備	2,495万KW	801.5万KW				
超高压送電線	2,988 Km	641 Km				
鉄 道 新 設	1,859 Km	1,714 Km				
鉄 道 複 線 化	2,198 Km	799 Km				
鉄 道 電 化	4,691 Km	1,597 Km				
沿海港湾積卸量	6,653万トン	6,450万トン				
製 鋼	313万トン	—				
製 鉄	300万トン	—				
鋼 材	80万トン	—				
エ チ レ ン	90万トン	—				
合成アンモニア	120万トン	60万トン				
セ メ ン ト	571万トン	405万トン				
板 ガ ラ ス	1,022 万箱	502 万箱				
化 学 繊 維	—	22万トン				

出所：中国経済年鑑（1986年 V-16P～17P）より作成

原材料（鉄鋼、非鉄金属、化学工業、石油化学工業、森林工業及び建材工業）は37項目で、全体の21%を占める。その中には宝山製鉄所（上海）は中国建国以来の新しい技術設備であり、最先端の技術をもつ、最大規の鉄鋼基地である。一期工事のうち、継目なし鋼管工事を除いて、1985年9月に完工し、生産に入った。製鉄能力は年間300万トンである。その他完工したプロジェクトは、上海石油化工総廠、北京東方化工廠、冀東セメント（河北）、淮海セメント（江蘇）、寧国（安徽）、南寧ガラス（広西）、洛陽ガラス（河南）等がある。その他、中国内で最大にして、最先端の技術設備を有する江西省の銅基地にある貴溪精練所もすでに基本建設が完成し、生産に入っている。

その他の分野では引深南線送水工事（河北・天津）、烟台合成皮革廠（山東）、昆明三磷酸ナトリウム工場（雲南）、儀征化纖分工場および北京化纖ポリエステル短織工場等が完工生産に入った。

（以上 中国経済年鑑 1986年、V-16P~17Pより）

以上をまとめてみると、第6次五ヶ年計画において、890（実際は1,071）の基本建設を行うことにしたが、その最重点はエネルギー、交通等のインフラ分野であり、この面に建設投資の38.5%が投入された。これは従来五ヶ年計画より、高い数字である。次いで重点をおかれた分野は農業、冶金、化学工業等の原材料分野、さらに紡績、衛生、教育、文化等の民生分野である。

他の6・五計画における特徴は現有設備の更新、技術改造に重点を置いたことであり、6・五計画中の投資の36%が当てられたが、これは過去5つの5ヶ年計画の平均投資比率である20%を大きく、上回るものである。

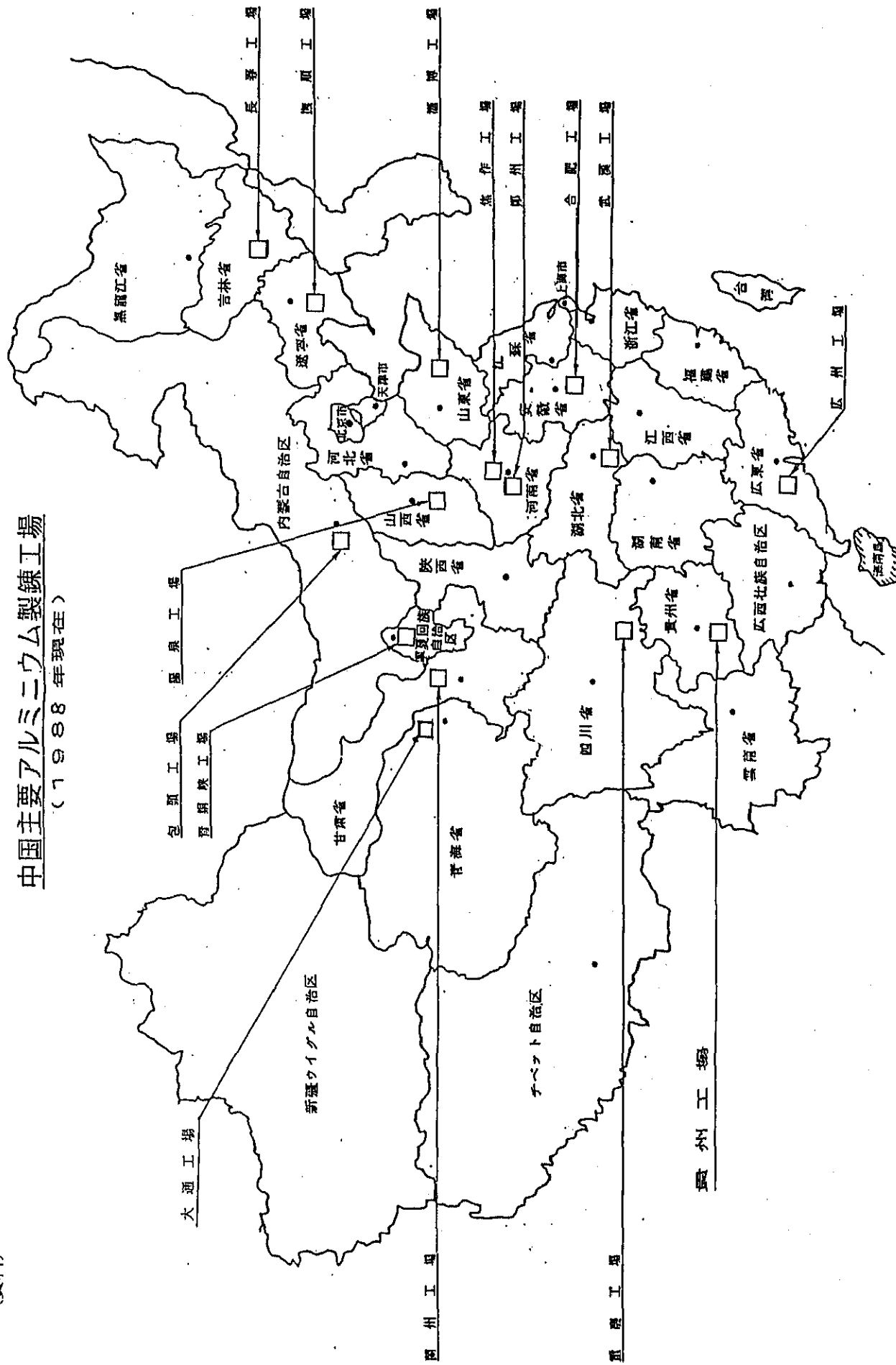
ところで、6・五計画中の国家重点プロジェクトは173となるが、上記の状況を反映し、実にエネルギー、交通、原材料等の分野が143を占め、投資額の面からみても92%を占める。

- 1) エネルギー分野が61プロジェクトで、全体の35%を占める。そのうち、石炭が15項目、石油が6項目、電力40項目、うち、水力11項目、火力23項目、原子力1項目、その他50万Vの送電施設5項目である。
- 2) 交通分野は40プロジェクト、全体の23%を占める、そのうち、鉄道9項目、港湾12項目、道路1項目、運河1項目である。
- 3) 郵便分野は7プロジェクト、その中でとくに目立つのは3,000Kmに及ぶ、北京、武漢、広州を結ぶ同軸ケーブルであり、1985年10月に開通した。
- 4) 原材料工業は37プロジェクト、21%を占める。その内訳は鉄鋼、非鉄金属、化学工業、石油化学、森林、建材等である。
- 5) その他、教育、文化、衛生、軍事等があるが全体に占める割合は大きくない。

(資料)

中国主要アルミニウム製錬工場

(1988年現在)



出所：金属鉱業事業団 北京海外調査員 作成資料より作成

第6次五ヶ年計画期間国家重点プロジェクト

1. ○印は6・五計画期間内に完工したものである。(27項目)
2. △印は1983年度の70プロジェクト(68項目、不明2項目)
3. ☆印は1984年度に追加された57プロジェクト(54項目、不詳3項目)
4. △、☆の無いものは1985年度に追加されたプロジェクト(43項目、不詳3項目)
5. ※印は1983年中に完工したもの(4項目)
6. 不詳なものは軍事関係である。

(表10)

分野	プロジェクト名	所 属
☆ 石 炭 1	開灤炭鉱	河 北
△ 2	古交炭鉱	山 西
△ 3	大同炭鉱	〃
☆ 4	陽泉炭鉱	〃
☆ 5	平朔炭鉱	〃
△ 6	霍林河炭鉱	内 蒙 古
△ 7	鉄法炭鉱	遼 寧
☆ 8	双鴨山炭鉱	黒 竜 江
☆ 9	大屯炭鉱	江 蘇
△ 10	淮南炭鉱	安 徽
△ 11	淮北炭鉱	〃
12	任楼炭鉱	〃
△ 13	兗州炭鉱	山 東
☆ 14	枣藤炭鉱	〃
△ 15	平頂山炭鉱	河 南
石油工業		
☆ 16	遼河油田	遼 寧
☆ 17	大慶油田	黒 竜 江
☆ 18	勝利油田	山 東
☆ 19	中原油田	河 南
☆ 20	新疆油田	—
☆ 21	華北油田	河 北
電力工業		
△ 22	白山水力発電所	吉 林
☆ 23	緊水灘水力発電所	浙 江
△ 24	葛州壩水力発電所	湖 北
△ 25	東江水力発電所	湖 南
☆ 26	銅街子水力発電所	四 川
☆ 27	黄泥河魯布華水力発電所	雲 南

分野	プロジェクト名	所属
☆ 28	安康水力発電所	陝西
△ 29	竜羊峡水力発電所	青海
△ 30	天生橋水力発電所	貴州・広西
31	岩灘水力発電所	広西
32	沙溪口水力発電所	福建
33	石景山火力発電所	北京
△ 34	陡河火力発電所	河北
△ 35	大同新火力発電所	山西
☆ 36	神頭火力発電所 (第一)	"
☆ 37	漳沢火力発電所	"
△ 38	通遼火力発電所	内蒙
○ ☆ 39	元宝山火力発電所	"
△ 40	錦州火力発電所	遼寧
△ 41	富ラル基第二火力発電所	黒竜江
42	双鴨山火力発電所	黒竜江
43	石洞口火力発電所	上海
44	徐州火力発電所	江蘇
45	鎮海火力発電所	浙江
※○ △ 46	台州第一火力発電所	"
○ 47	台州第二火力発電所	"
☆ 48	平于火力発電所	安徽
☆ 49	洛河火力発電所	"
☆ 50	貴溪火力発電所	江西
☆ 51	石横火力発電所	山東
☆ 52	鄒県火力発電所	"
53	焦作火力発電所	河南
☆ 54	姚孟火力発電所	"
55	沙角火力発電所	広東
☆ 56	重慶火力発電所	四川
57	秦山原子力発電所	浙江
△ 58	神頭~大同~北京~天津 50万V 高压送変電工事	
△ 59	元宝山~錦州~遼陽~海城 50万V 高压送変電工事	
60	徐州~上海~50万V 高压送変電工事	

分野	プロジェクト名	所属
	61 吉林東豊～遼陽50万V高圧送変電工事	
鉄道		
△	62 南同蒲線複線化工事	山西
☆	63 北同蒲線複線化および電化工事	"
○ △	64 堯石線	山東
△	65 膠濟線複線化	"
☆	66 成渝線電化	四川
☆	67 大秦線	山西、河北
☆	68 新菏線	河南
○ △	69 皖贛線	安徽・江西
○ △	70 京秦線複線化及び電化	北京、河北
△	71 京包線複線及び電化	北京、内蒙古
○ △	72 太焦線複線及び電化	山西・河南
○ ☆	73 三腰線（山水－腰古）	広東
☆	74 衡広線複線化及び電化	"
☆	75 湘黔線電化	湖南、貴州
△	76 貴昆線電化	貴州、雲南
△	77 隴海線電化	甘肅、河南
	78 上海新駅	
	79 徐州地域集中センター駅	江蘇
☆	80 唐山機動車車輛工場	河北
交通		
△	81 天津港	
	82 大連港	遼寧
△	83 營口港	"
△	84 秦皇島港	河北
☆	85 青島港	山東
○ △	86 石臼港	江蘇
△	87 連雲港	"
△	88 上海港	"
☆	89 南京港	江蘇
	90 煙台港	山東
△	91 黃埔港	広東

分野	プロジェクト名	所属
△ 92	湛江港	広 東
☆ 93	京杭運河	
○ ☆ 94	青蔵公路	青海・チベット
郵便・電気通信		
△ 95	北京国際電信局	
○ △ 96	北京東単市内電話局	
☆ 97	北京郵便センター	
98	(北京) 10万回線電子自動制御交換機	北 京
99	上海中国ベルギー合弁自動制御交換機生産プラント	
100	上海長距離電信キーステーション工事	
○ △ 101	京漢広中軸ケーブル工事	北京、武漢、広州
製鉄工業		
△ 102	宝山鋼鉄総廠及び冶金に必要な工事	上 海
☆ 103	武漢鋼鉄公司	湖 北
☆ 104	舞陽鋼廠	河 南
非鉄金属		
△ 105	山西アルミニウム工場	
☆ 106	包頭アルミニウム工場	内 蒙 古
△ 107	貴州(陽)アルミニウム工場	
△ 108	江西銅業公司(永平銅鉍)	
☆ 109	金川非鉄金属公司	甘 肅
110	青海アルミニウム工業	
111	青銅峽アルミニウム工業	寧 夏
化学工業		
△ 112	雲浮硫鉄鉍	広 東
☆ 113	荊襄磷鉍鉍務局	湖 北
○ △ 114	東方化学工廠	北 京
☆ 115	天津ソーダ灰廠	
△ 116	山西化学肥料廠	
117	銅陵化学工廠	江 西
石油化工		
△ 118	大慶エチレン工事	黒 竜 江
☆ 119	楊子石油化工公司	江蘇(南京)

分野	プロジェクト名	所属
☆ 120	齊魯石油化工公司	山東
○ △ 121	上海石油化工総廠二期工事	
○ △ 122	鎮海石化総廠	浙江
○ △ 123	ウルムチ石化総廠	新疆
☆ 124	寧夏化工廠	
森林工業		
☆ 125	鶴北林業局	黒竜江
126	長沙人造板工場	湖南
建材工業		
△ 127	秦皇島耀華ガラス廠	河北
※○ △ 128	冀東セメント廠	"
○ △ 129	淮海セメント廠	江蘇
○ △ 130	寧国セメント廠	安徽
131	螳埠板ガラス廠	"
☆ 132	江西(万年)セメント	
133	柳州セメント	広西
○ △ 134	南寧ガラス廠	"
○ △ 135	洛陽ガラス廠	河南
136	太原板ガラス廠	山西
機械工業		
137	上海発電設備製造	
自動車工業		
△ 138	第一自動車製造廠	吉林
☆ 139	第二自動車製造廠	湖北
軽工業		
※○ △ 140	昆明三磷酸ナトリウム廠	雲南
※○ △ 141	煙台合成皮華廠	山東
142	杭州磁気テープ廠	浙江
紡織工業		
△ 143	北京化織廠	
△ 144	儀征化織工業連合公司	江蘇
水利		
○ △ 145	引澗南線送水工事	河北

分野	プロジェクト名	所属
気象		
△ 146	気象衛星資料接受処理システム工事	北 京
文化		
△ 147	北京図書館	
教育		
148	北京大学	
149	清華大学	
150	復旦大学	上 海
151	上海交通大学	
152	西安交通大学	
衛生		
○ △ 153	日中友好病院	北 京
154	北京医院	
155	北京医学附属人民病院	
放送		
△ 156	中央カラーテレビセンター工事	北 京
科学		
☆ 157	中国科学技術情報センター	北 京
☆ 158	北京正負電子シンクロトン工事	
☆ 159	北京科技活動センター	
160	合肥同調輻射加速器	安 徽
国防軍事	(8項目)	
○ 161~168	1項目完工を予測	
都市建設		
169	上海延安東路江底トンネル	
170	上海浦東ガス廠一期工事	
その他		
171	新華社技術業務ビル	北 京
172	国家特許業務ビル	〃
○ 173	中国肉類食品総合研究センター	〃
	以上	

2. 6・五計画期間中調査・準備を実施したプロジェクト（判明したものに限り）

〈1986年版中国経済年鑑から〉

すでに指摘したとおり、7・五計画、8・五計画期に実施するために6・五計画期間中に調査研究、準備を実施したものは279プロジェクトあるが、これらは主として、建設期間が長期を要し、関係機関等を調整を要する複雑なものであった。

この279項目中、エネルギー工業分野は、66項目、全体の24%を占め、その中には長江三峡水利工事も含まれている。交通運輸、電気通信項目は36、全体に占める割合は13%、その中には全長2,307Kmの京広鉄道電化改造項目が、また原材料工業分野は86項目、全体に占める割合は31%、この中には宝山製鉄所二期工事、(製鋼、製鉄各生産300万トン、熱圧延板400万トン、冷圧延板210万トン)が含まれている。

これら279項目のうち、100項目前後が、準備作業を終えて、7・五計画期中に工事に入れるものと思われる。その主要なプロジェクトは次のとおりである。

エネルギー工業

- (1) 漫湾水力発電所 (雲南)
- (2) 羊卓雍湖水力発電所 (チベット)
- (3) 李家峡水力発電所 (青海)
- (4) 神頭第二火力発電所 (山西)
- (5) 北倫港火力発電所 (浙江)
- (6) 沙嶺山火力発電所 (河北)
- (7) 瑪納斯火力発電所 (新疆)

交通運輸・電気通信

- (8) 候馬一月山鉄道 (山西-河南: 焦作から3つ陝西寄り)
- (9) 北疆鉄道
- (10) 秦皇島石炭阜頭第三期工事
- (11) 寧漢光ファイバー通信工事 (南京~武漢~重慶)

原材料他

- (12) 宝山製鉄所第二期工事
- (13) 山西アルミニウム拡張工事
- (14) 攀枝花鋼鉄公司第二期工事 (四川)
- (15) 唐山純ソーダー工場 (河北)
- (16) カルム青海カリウム肥料工場
- (17) 順昌セメント工場 (福建)
- (18) 儀征化纖第三工場 (江蘇)
- (19) 小浪底ダム (河南)

(20) 南水北調東線工事

これらのうち (6)、(19)、(20) を除いて、すでに7・五計画の中で着工されていることが確認されている。

附-II

6・五計画国家重点プロジェクト数の推移等に係る関連資料

(「中国の重点プロジェクト」-第6次五ヶ年計画を中心にして- 1985年5月 JICA 北京事務所より)

1. 「2. 中国の重点建設プロジェクトの数」(上掲書3P)

(1983年大・中国国家重点プロジェクト)

中国には1981年から、始まり、1985年に終る国民経済・社会発展第6次五ヶ年計画がある。さらにその後、同じように同第7次五ヶ年計画、第8次五ヶ年計画と続いていくのであるが、まず、この6・五計画の中で、五年以内に施工する大・中型のプロジェクトは890項目あって、そのうち、約半数近いものが、1981年以前に着手され、6・五計画中に亘って、建設が続けられ、他の半数以上ものが、1981年から1985年の間に建設が始まるものである。そして、1985年以前に完成するものが400項目であり、さらに490項目が「7次五ヶ年計画」の期間中に亘って建設されるものである。この890項目の「6次五ヶ年計画」期間中に施工するもの以外にそれにひきつづく、「7次五ヶ年計画」、「8次五ヶ年計画」において建設をはじめめるために主として、6・五計画期間中に準備作業をすべきものとして、重要調査プロジェクト、279項目がある。この279項目については「6次五ヶ年計画」期間中は施工にかからず、ただ、それについて、科学研究を進め、技術経済面からの論証と調査設計等の建設前の作業をするのである。

1983年の5月に中国はさきの890項目の大中型プロジェクトのうち、70項目の大中型重点プロジェクトをえらび、その合理的工期に合せ、その建設のための設備、資材をまとめて供給し、その設計を促進することとした。^(註1) (巻末添付資料1)

その後、1990年代の経済発展のために好ましい物質的な基礎を与えるために、国家計画委員会はさきの890項目の中から、さらにエネルギー、交通分野のプロジェクトをいくつか選び、これらに対しても、合理的工期に合せて、建設が出来るように手当てすることにしたのである。これが「巻末添付資料2」の93^(註2)のプロジェクトであり、それは「6次五ヶ年計画」中に施工する890項目中、主として1983年7月頃まで建設を開始したもの(ただし、一部には1985年または1986年に到って、建設を開始するものも含む。)かつ、工事費が概算で5億元以上の重大プロジェクトである。別表1にあげた70項目のプロジェクトのうち、一半は93の重大建設プロジェクトの中に含まれるが、一半はその工事費概算額が5億元に満たないため、93項目の中からは除外している。それらの重点分野については、すでに久しく、いわれているのであるが、建設の重点分野はエネルギーと交通、さらに国民経済を発展させるために重要な役割を果す大・中のプロジェクトを指すのである。

註1:1983年版中国経済年鑑によれば、1982年度にも50項目の国家重点プロジェクトの存在を示しているが、これは1983年の70プロジェクトと重複するものであろう。

なお「70プロジェクト」については前出の「第6次五ヶ年計画期間国家重点プロジェクト」参照

注2：添付資料（216P～219P）参照

2. 「3. 1984年大・中重点国家プロジェクト」（上掲書4P）

1984年の国家重点プロジェクトは123項目である。この123項目のうち、さきに紹介したところの1983年度の70項目（1983年中に完成したのが、^{注1)}4項目、あとの66項目は1984年もひきつづいて、建設していく。）のうち1983年内に完成した4項目を除いて新たに国家や国民生活の需要に応じて、^{注2)}57項目がつけ加えられた。こうして決定された123項目のうち、79項目がエネルギー及び交通分野（鉄道、港灣等）であるといわれる。こうして、決定された123の重点項目のその1年後の成果については、1985年2月4日の民族日報によれば、全般として、これら、123プロジェクトの過去一年間の進捗は速いものであったとのことである。たとえば、

- 1) 石炭分野、14重点鉱区のうち、7つの重点炭坑の建設が完工し、生産に入ったという。それらの炭坑の産炭能力は合計すると、1,084万トンとなり、とくにその中には年産300万トンの石炭を生産するところの山西古交西曲炭坑が予定期限前に完成し、生産に入った。
- 2) 電力分野では26重点プロジェクトのうち、大同第二発電所の二号発電ユニットが期間前に完工し、電力生産に入った。また、大同・北京間の第一回線の50万Vの超高压送電線の建設も期限前に完成し、使用に供された。
- 3) 石油分野では6の重点プロジェクトのうち、1984年中に新たに1,240万トンの生産能力を増加させた。これは予定した計画量を60%以上超過するものであった。
- 4) 交通・運輸分野では京・秦（北京・秦皇島間）がすでに簡易開通したが、電化工事を除けば元来の計画より、一年早い完成である。その結果、年間1,000万トンの石油輸送ができることになった。年間2,000万トンの石炭の積卸しのできる秦皇島港の二期工事は現在積載重の試運転をしているところであり、早期に使用することができよう。京（北京）・漢（武漢）・広（広州）間の同軸ケーブルの工事はすでに長沙まで開通し、広州間においては湘江及び連水の二本の水面下のケーブルを除いては全て、敷設が完了し、設備の据え付けも開始された。
- 5) 製鉄の分野では全国民が注目の的である上海宝山鋼鉄総廠の建設も順調であり、各分野の基幹工事はすでに全面的な試運転の段階に入った。製鋼所はすでにそれだけでの試運転に入った。また、継ぎ目なし鋼管の工事は目下、設備の据え付けに入っている。
- 6) 水力発電分野では葛州壩水力発電所の二期工事はコンクリート巻き、土石の掘り出し及び埋立がいずれも予定期間前に完了した。

国家統計局関係者によれば123重点プロジェクトについて、合計176億元の投資を終えたが、予定計画より、6億元多い。

注1：1984年中国経済年鑑によると1983年の70項目のうち、No. 21台州（浙江）火力発電所、No. 43昆明三磷酸ナトリウム工場（雲南）、No. 44煙台合成皮革工場（山東）、No. 128冀東セメント廠（河北）の4項目と考えられる。

注2：1985年版中国経済年鑑に新たにつけ加えられた57項目のうち、54項目が明らかにされた。

それらは資料の☆印項目である。

3. 4. 1985年大・中重点プロジェクト（上掲書5P）

国家計画委員会は関係方面と協議のうえ、1985年に全国で合理的工期をもって、建設が進められるよう労働者、資機材をとどこうりなく供給していくところの重点プロジェクトとして、^{注3)}169項目を決定した。

この169項目のうち、123項目は前項で述べたところの1984年からのひきつづいているものであり、実際に1985年として新たにつけ加えられたものは^{注4)}46項目である。とくに、これには1985年は北京大学、清華大学（この二つは北京）、復旦大学（上海）等五つの全国重点大学の拡充強化、及び一群の地方の建設プロジェクトが加えられたことが大きな特色である。

ところで、この169項目を分野別に概観すると、エネルギー分野（60項目）が最も多く、これらのプロジェクトが完成した暁には石炭生産能力が年間8,430万トン増加した、また、1985年で完了する第6次五ヶ年計画期間に原油の生産能力を3,133万トン増加させ、さらに発電設備容量を2,430万5千kw増加させることができる。

交通運輸分野（39）主なものは鉄道の複線化及び電化であり、また、沿海の港湾建設であり、さらに郵電分野における電話交換機工事である。

その他は原材料工業（33）、科学・文教・衛生（16）、国防軍事建設（8）、自動車、軽工業（紡績も含む）（13）等である。

つまり、1985年の重点プロジェクトはエネルギー、交通、原材料等の国民経済の弱い部分の強化、知力開発の促進の分野にとくに力がおかれているといえる。

注3：なお、最終的に1986年度の中国経済年鑑の中に6・五計画のプロジェクト173項目が明らかにされた。（174項目となっているが、その中の1項目「山東寿光ガラス工場は明らかに、7・五計画期間（1986年）に着工されており、6・五計画の項目に算入するのは誤りである。また、この数字は169項目+4項目（1983年中に終了した項目）=173項目である。

注4：表10を参照

△ 70プロジェクトと重複するもの

(表11)

分野	プロジェクト名	所属	
炭 鉱	開滦鉱区 (拡充工事)	河 北	
	△古交鉱区	山 西	
	△大同鉱区 (拡充工事)	"	
	潞安鉱区 "	"	
	陽泉鉱区 "	"	
	晋城鉱区 "	"	
	△霍林河鉱区	内 蒙 古	
	平庄鉱区 (拡充工事)	"	
	△鉄法鉱区 "	遼 寧	
	△兗州鉱区	山 東	
	△平頂山鉱区 (拡充工事)	河 南	
	△淮北鉱区 "	安 徽	
	△淮南鉱区 "	"	
	石 油	△大慶油田 (拡充工事、その中の30万トンエチレン・ コンビナートシステムの新設工事)	黒 竜 江
		遼河油田 (改造工事)	遼 寧
中原油田 (拡充工事)		河 南	
華北油田 (冀中油田) (改造工事)		河 北	
勝利油田 "		山 東	
新疆油田 "		新 疆	
青海油田 "		青 海	
四川油田 "		四 川	
電 力	△葛洲壩水力発電所	湖 北	
	△竜羊峽水力発電所	青 海	
	安康水力発電所	陝 西	
	烏江渡水力発電所	貴 州	
	黄泥河階段式水力発電所	雲 南	
	△白山水力発電所	吉 林	

分野	プロジェクト名	所属	
鉄道	銅街子水力発電所	四川	
	△天生橋水力発電所	貴州、広西	
	万安水力発電所	江西	
	神頭発電所(二、三期拡充工事)	山西	
	姚孟発電所(拡充工事)	河南	
	△富爾拉基第二発電所(第一、二期工事)	黒竜江	
	諫壁発電所(第四、五期拡充工事)	江蘇	
	元宝山発電所(拡充工事)	内モンゴ	
	肥城石横発電所	山東	
	淮南平圩発電所	安徽	
	△兗州-石臼所 新線建設工事	山東	
	△北京-秦皇島 電化複線化工事	北京、河北	
	北京-広州線(うち衡陽-広州) 複線化工事	北京、広東	
	△修文-候馬 複線化工事(南國蒲線)	山西	
	△青島-藍村西 複線化工事(膠濟線)	山東	
	石家荘-太原 電化工事(石太線)	河北、山西	
	磁山-長治線	河北、山西	
	上海-寧波 複線化工事	江蘇、浙江	
	△蕪湖-貴溪 新線建設	安徽、江西	
	△北京-包頭 電化複線化工事	北京、内モンゴ	
	哈爾浜-滿州里 複線化工事(浜州線)	黒竜江	
	△宝鶏-蘭州 電化複線化工事	甘粛西	
	鷹潭-長沙 複線化工事	浙江、湖南	
	枝城-柳州線	広西、湖北	
	天津-浦口 複線化工事(津浦線)	天津、江蘇	
	南疆線(新疆吐魯番-庫爾木)	新疆	
	青蔵線(青海哈爾藍-格爾木)	青海、チベット	
	北京鉄道センター(拡充工事)	北京	
	北京-山海関(改線工事)	北京、河北	
	港湾	△秦皇島港(拡充工事)	河北
		△天津港	天津
		△上海港	上海

分野	プロジェクト名	所 属
交 通 鋼 鉄	△連雲港（拡充工事）	江 蘇
	寧波港	浙 江
	△石臼所港	山 東
	△黄浦港（拡充工事）	広 東
	青島港 //	山 東
	青海-チベット道路改造工事（青蔵公路）	青海、チベット
	△宝山製鉄所第一期工事	上 海
	首都製鉄所（拡充工事）	北 京
	本溪製鉄所 //	遼 寧
	金川非鉄金属公司（拡充工事）	甘 肅
非 鉄 金 属	△江西銅業公司 //	江 西
	△貴州アルミ工場 //	貴 州
化 学 工 業	燕山石油化学コンビナート（拡充工事）	北 京
	△路城化学肥料工場	山 西
	△新疆化学肥料工場	新 疆
	吉林化学工業公司（拡充工事）	吉 林
	遼陽石油化学繊維工場	遼 寧
	△上海石油化学コンビナート二期拡充工事	上 海
	天津石油化学繊維工場	天 津
	△儀征化学繊維第一、二工場	江 蘇
	四川長寿ビニロン工場	四 川
	△昆明三磷酸ナトリウム工場	雲 南
自 動 車 工 業	湖北第二自動車製造工場（拡充工事）	湖 北
	威陽カラーテレビ、ブラウン管工場	陝 西
テ レ ビ	潘家口ダム	河 北
	黄河下游治水改造工事	河南、山東
水 利	黒竜港湾治水工事（拡充工事）	河 北
	洞庭湖貯水放水工事（改造工事）	湖 南
林 業	牙克石林業区（拡充工事）	内 蒙 古
	雅砻江林業区 //	四 川
	長白山林業区 //	吉 林
	大興安嶺林業区 //	黒 竜 江

分野	プロジェクト名	所属
交通	金沙江林業区(拡充工事) 北京地下鉄工事(拡充工事) 以上 93プロジェクト	雲南 北京

附－Ⅲ

「中国の重点プロジェクト（第6次五ヶ年計画期間中を中心に）」

（1985年5月、国際協力事業団 北京事務所）の作成経緯

1. 「1. 本資料作成の経緯」（上掲書 1P）

本資料は1983年5月中旬、人民日報、経済日報等主な新聞に中国政府の発表として、掲載された記事にはじまる。

はじめはまず、中国政府が第6次五ヶ年計画期間中に資金、資材、マンパワーを優先的に配分して、その建設を短期の計画期間内に完成させるという企図のもとに、この期間中に実施する890項目のプロジェクトの中から、70項目の大中型プロジェクトを選択して発表した。しかし、その後、ひきつづいて、5億元以上の資金の要る93項目のプロジェクトが発表されたり、さらにはさきにふれた890項目やこの期間中に研究のみをする279項目プロジェクトと、それぞれ、数の異なる発表があって混乱して、困るという批判の声が上がった。そこで当局側はそのいきさつを説明することとなった。（第2章 プロジェクトの数を参照願いたい）。

その後、1983年一杯にかけて、主として、最初に発表された70プロジェクトを中心に、人民日報、経済日報等主な新聞にそれらプロジェクトの進捗状況がたびたび報道された。それと平行して、これら各紙にやはり70プロジェクトを中心に各プロジェクトの紹介が掲載された。今回の資料はこれらを翻訳したものである。ただし、全部が紹介されたわけではなく、結局はここで紹介するのは63プロジェクト（本資料では淮南炭鉱と淮北炭鉱をひとつにまとめて、紹介したため、また、營口港については新聞にはのらなかったが、聞取りで要点のみを記したため、全体で63項目となった。）に止まった。さらに、鉄道のように9線をまとめて、一度に紹介しているので、個々のプロジェクトについては非常に簡単なものとなった。したがって、全体としてその紹介の内容にも清粗は免れない。93プロジェクトについては、約1/3が70プロジェクトと重複していた。また、実際に70プロジェクトと重複しないもので、新聞で紹介されたものは8プロジェクトのみであった。

1984年度、1985年度についても新聞において、2月前後にその年の重点プロジェクトが発表されているが、それは数と分野別程度で、個々のプロジェクトの名称、いわんや個々のプロジェクトの紹介は無くなってしまった。

しかし、推測するところでは基本的には70プロジェクト、93プロジェクトあるいは890プロジェクトを基本として、それに若干新たなものが加えられ、完工したものを除いていくというようである。過去3年間余りの中で中国の重点プロジェクトを具体的に示した資料は少ない。とくに「70プロジェクト」については時間的に1985年に修了する第6次五ヶ年計画中に完了するものが大部分であり、もちろん、そのうち若干のものは1986年から、始まる第7次五ヶ年計画にずれ込んで完工していくものもある。したがって、現時点で本資料の意味はさきほど大きくないかもしれないが、それぞれの短い紹介記事の中にも、外国から技術導入しているプロジェクト、設備の製造地点、設計及び施行機関、ものによっては全国の関連機関が協力して、プロジェクトの建設に当たっている状況等が垣間見られるなど、興味をひく内容も少なくないので、とりあえず、ここに資料としてまとめてみた。なお、その

他、巻末に中国で建設中の大型火力発電所および中国の石炭埋蔵量の60%を蔵する山西省の炭鉱および火力発電所の配置状況を示した資料を添付する。

また、本資料は人民日報、経済日報紙に掲載されたものを訳出したものであるか、あるいはそれらから、構成したものであるが、個々に出展を明示することははぶかせていただいたので、あらかじめお断りしておく。

(完)



Japan
International
Cooperation
Agency

国際協力事業団